

## 第2回「安心・活力・発展プラン2005」推進委員会 主な委員発言要旨

### 【安心】

#### (子育て関連)

- ・子育て中の親が気軽に集まるような寄合所のようなものを設置することにより、地域が大きな家族になるような取り組みを進めてもらいたい。
- ・子どもを背負って働いている母親も見受けられる地域もあり、子育て環境に地域間の格差がある。子育て中の若い世代を地域で支え合う仕組みづくりが重要である。

#### (障がい者関連)

- ・障がい者もパソコンを使った簡単な入力作業はできるので、そのような観点から障がい者の雇用創出を図ってはどうか。

#### (環境関連)

- ・ジオパークについては、素材と組織と実績が大切だが、現状では組織づくりが遅れており、課題である。
- ・地球温暖化対策や環境問題への取り組みは大切である。

#### (安全・安心な暮らし)

- ・ネット社会が進む今後は、高齢者のネットトラブルなどの問題が顕著になると考えられ、十分な安心・安全対策が必要である。

#### (地域の底力)

- ・コンビニエンスストアをコミュニケーションの場、支え合いの場のキーステーションにしてはどうか。
- ・田舎に仕事や人が流れる仕掛けを作ることが重要である。

#### (危機管理)

- ・本庁以外にも危機管理センターを設置するなど、災害時の行政機能の確保対策が大切である。
- ・災害時におけるネットを活用した情報提供や高齢者の安心・安全対策を検討すべきである。

#### (男女共同参画)

- ・女性のM字カーブを解消するため、積極的に休暇が取得できる体制の整備など、中小企業への支援が必要である。
- ・女性の再就労については、パソコン技術の習得が有効であり、M字カーブ解消のためにも、戦略的に取り組むべきである。

## 【活 力】

### (農林水産関連)

- ・担い手不足の解消に向けては、若手の育成に加え、高齢の方が長く農林水産業に携われるような施設整備等にも視点を向けるべきである。
- ・豊後牛のブランド化が図られるよう戦略を立てて進めるべきである。
- ・「農家のこせがれネットワーク」など、NPO と連携した新規就農者確保の取り組みの実施も重要である。

### (商工業関連)

- ・東九州メディカルバレー構想の医療特区で何ができるのかを明確にし、有効活用すべきである。
- ・八丁原発所は、県外にも誇るべき施設であり、観光面からもっとPRする必要がある。
- ・再生可能エネルギーの導入にあたっては、市町村への届出など、手続きがスムーズにできるよう県と市町村が一緒になって推進すべきである。
- ・若年者については、企業等への就職を促進する一方で、起業家を育てることも重要である。
- ・子育て世代、若者、障がい者の雇用のためには、パソコンの技術習得が大事であり、技術力向上に向けた支援が必要である。

### (ツーリズム)

- ・研修旅行や修学旅行を積極的に誘致し、大分県には魅力的な産業があることをPRすべきである。
- ・観光振興のためには、振興局の管轄地域を超えた広いエリアでの交流、宣伝が必要である。

## 【発 展】

### (教育関連)

- ・国際化が進む中、様々な場面で外国語が重要となってくることから、外国語ができる人材の育成を積極的に進めるべきである。
- ・最近の厳しい就職状況や高い離職率を勘案し、「労働」に対する基本的な考えや「労働教育」を高校のカリキュラムに入れることが重要である。
- ・いじめの解消は、教員の能力に左右されるところが大きく、いじめ解消に向けて教員の質の向上を図るべきである。
- ・今後、さらにネット社会が進むと見られることから、ネットいじめ問題も顕著になると考えられ、十分な対策を検討すべきである。

(芸術・文化・スポーツ)

- ・美術館の開館に合わせて、アート、音楽等とのコラボレーションを進めるなど、魅力ある中心市街地づくりを進める必要がある。
- ・遠方からの来客を増やすため、県立美術館や **iichiko** 総合文化センターへの公共交通機関などの足の確保が必要である。

(県民活動)

- ・NPO からの相談に的確に答えられるよう、県の窓口で専門の職員を配置すべきである。